

歯周病は細菌感染症!!



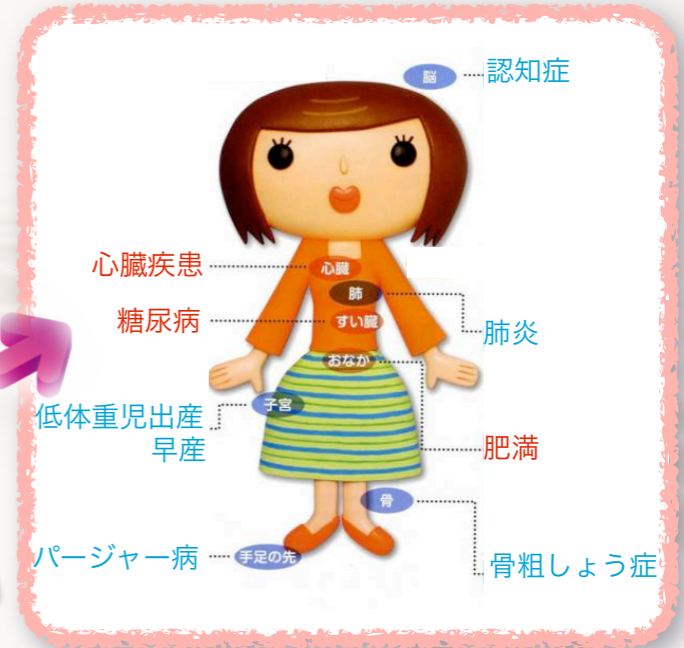
歯周病は細菌による感染症です。歯周病菌と、歯周病菌から体を守ろうとする防御機能とのバランスが崩れると発症し、進行していきます。

歯周病菌はお口の中だけに留まらず、全身疾患との関わりが深いことがわかってきており、生活習慣病はもちろん、早産などの生活習慣病に含まれないあらゆる全身の病気を引き起こす原因になると言われています。

歯周病の治療をすることは、全身疾患の予防や、疾患そのものの症状を軽減することにつながります。歯周病は痛みが出てからでは重度まで進行している可能性が高いため、早期発見、早期治療、そして予防のための検診や定期的なクリーニングが必要不可欠なのです。

～歯周病と関係が深い疾患～

赤で示す病気...生活習慣病
青で示す病気...歯周病との関係が深い要注意の病気



インスリンの働きが悪くなり、細胞が栄養不足になり、体の抵抗力が落ちてしまう病気。進行すると、3台合併症の腎臓障害、視力低下、神経障害を引き起こします。

歯周病 : Periodontology

メタボリックシンドローム : Metabolic syndrome

肺炎

お口の中の歯周病菌が増えれば、気管から肺へ、あるいは、血流によって全身へと入り込む危険性も高まります。歯周病菌はこうして、高齢者の誤嚥性肺炎や細菌性心内膜炎の原因となることもあるのです。

骨粗しょう症

歯周病が進行すると、歯を支えている骨である歯槽骨（しそうこつ）が破壊されます。骨が弱く脆くなる病気である骨粗鬆症にかかっている方では、歯周病による歯槽骨の破壊も進みやすいことが報告されています。

早産、低体重児出産

歯周病が進行すると、免疫を担当する細胞から血中に「サイトカイン」という情報伝達物質が出され、歯を支える組織を破壊する酵素が出やすくなり、歯周病が進みます。

そして妊婦の体内では血中サイトカイン濃度が高くなると出産を早めます。切迫早産や低体重児を出産した妊婦の歯周病菌の数は、正常妊娠の妊婦に比べ、約4.5倍多いことが分かっています。

糖尿病

歯周病に感染している場所に集まるマクロファージという細菌から、インスリンの働きを抑える物質が放出されます。さらに肝臓の糖の分泌を抑えることから、インスリン分泌障害を起こすと言われています。重傷の歯周病の場合、軽度の歯周病に比べ、2年後に糖尿病が悪化している率が5倍高くなります。

肥満

肥満は生活習慣病です。その影響により、糖尿病になりやすく、その結果歯周病に感染するリスクが高くなります。肥満の方は、平均体重の方よりも歯周病菌が多いと言われています。

心臓病

歯周病菌の作り出す物質が血液中に流れ、冠状動脈の壁を肥厚させ、血管が詰まり動脈硬化を引き起こすのではないかと考えられており、心筋梗塞や狭心症、心内膜炎を引き起こす原因となります。歯茎の健康な人に比べ、2.8倍の危険率があります。